国際家庭年を記念する国際会議

WCCエキュメニカルセンターで開催

スイス・ジュネーブ

5月14日、スイス・ジュネーブの世界キリスト協議会（WCC）エキュメニカルセンターで、２０１９年国際家庭年を記念して「平和と人間性発展のための超宗教間協力：家庭繁栄の為の環境創造」とのテーマで、世界基督教協議会（WCC）とUPF（天宙平和連合）、WFWP（世界平和女性連合）、GIIA（平和と発展のための超宗教連合、ジュネーブ宗教・文化間連盟）そしてFPF（フリバーグ平和フォーラム）の共同主催による国際会議が開催された。

家庭をめぐる宗教間協力を議論＝5月14日、スイス・ジュネーブのWCCエキュメニカルセンター

今回の会議は、世界的に注目を集めている家庭問題や女性に対する性暴力に焦点を当てたもの。特徴は、宗教や宗派を超えたエキュメニカル的性格で、発表者や参加者が多様性を持っていた。カトリックからは、教皇フランシスコとロシア正教会のキリル総司教の歴史的会談（２０１６年、キューバ）を設定した主要人物であるイワン・ジュルコビッチ大司教が、そしてプロテスタントからはWCCの副事務総長のイザベル・アポワ・フィリ博士が参加した。更には世界平和家庭連合ヨーロッパ会長のマイク・バルコム氏やイスラム、正教の神父やシーク教、仏教信徒などが参加して活発な議論がなされた。

特にカトリックの大司教がプロテスタントの総本山とも言えるWCCの会議に参加したことは、高く評価される。カトリックも聖職者の性モラルの問題で揺れており、家庭問題はもはや他人事ではない。さらにWCCのイザベル・アポワ・フィリ博士がアフリカの南スーダンでの性暴力や家庭問題の現状を報告し、「家庭問題に関しては新しい教え、理念が必要」と発言し注目された。

このような宗教間協力はヨーロッパでは一般的となっており、特に平和構築、移民・難民、家庭崩壊そして性道徳の紊乱などの諸般の問題に、宗教や教派を超えた協力が必要とされている。

ファリーナ枢機卿に旭日重光章

春の外国人叙勲

政府は２０１９年春の外国人叙勲で5月21日、バチカンのラッファエーレ・ファリーナ枢機卿（バチカン図書館・古文書館元館長）に旭日重光章を贈った。

枢機卿は長年、日本・バチカン間の関係強化及び友好親善に尽力し、中でもサレジオ会宣教師マリオ・マレガ神父が収集した江戸時代の豊後地方のキリスト禁教に関する史料コレクションをはじめ、バチカンが所蔵する日本関連史料の研究活動及び保存修復に日本側と協力しながら尽力した。（CJC）

刑法の反同性愛規定廃止認めず

ケニア高等法院

ケニアの高等法院は5月24日、同性間の性交渉を違法とする刑法の規定の廃止を求めてLGBT（性的少数者）活動家らが起こしていた訴えを退けた。AFP通信などが報じた。

ケニアの刑法は、「自然の秩序に反する……性行為をした者」に最高で14年の禁錮刑を、男性間のみだらな行為をした者に最高で5年の禁錮刑を科すと定めている。実際に適用されることはまれだが、活動家らはこれらの規定はプライバシーと尊厳を損うものであり、差別を助長し、医療や司法へのアクセスを阻害するものだとして廃止を求めていた。

しかし、申し立てから3年を経て高等法院は、キリスト教が主流のケニアにおける文化と家族に関する価値観が損なわれるとの懸念を重視し、同性愛を違法とする法律は違憲ではないと判断した。（CJC）

北京でバチカン美術館の文物を公開

北京の故宮博物院とバチカン博物館（美術館）が共催する「美が心をつなぐ・バチカン博物館所蔵中国文物展」が5月28日、故宮神武門の展示ホールで開幕した。バチカン美術館が所蔵する中国由来の文物78点が、7月14日まで北京の故宮博物院北部の神武門で展示される。

出展されているのは、カトリック芸術や仏教芸術、世俗芸術の3分野をカバーしている。（CJC）

反対派のカトリックの神父

中国が教会から追放

中国中央部、河南省鄭州教区の劉全法（リュウ・クアンファ）神父は中国共産党の厳しい抑圧を受け、教区管理者の地位から退かなければならなくなった。中国の信教の自由と人権について報道するオンラインメディア『ビターウインター』（日本語版）が5月27日伝えた。

２０１８年のバチカン（ローマ教皇庁）と中国間の合意を受けて、バチカンは教皇と中国政府の双方に忠誠を誓う「新たな教会が誕生すると認識し、一方、中国共産党はこの合意により全てのカトリック教徒は『中国天主教愛国会』に参加する必要がある、と解釈した。中国政府はこの解釈を確実に実現するため、愛国会への参加を拒む反対派の聖職者の弾圧を続けている。

河南省鄭州市にある銘功路カトリック教会の劉全法神父は、この弾圧を最近受けた被害者の1人。２０１６年に死去した前教区管理者の張魁進（チョウ・クイジン）神父が12年に引退した際、バチカンは、鄭州教区には正当に役目を果たしている司教と教区管理者が不在になると認識し、教区管理者に劉神父が任命された。

現地の匿名希望のカトリック教徒が『ビターウインター』に伝えたところでは、昨年以来、河南省『中国天主教愛国会』の王躍勝（ワン・ユエシェン）理事と中国共産党中央統一戦線工作部職員が劉神父に対し、職を放棄し、王躍勝を代わりに教区管理者として認めるよう要求していたようだ。

18年初め、劉神父は教会の『ウイチャット』のグループに「キリスト教の子供たちの信仰の権利を断固として守る」というタイトルの記事を投稿した。その後、香港の新聞がそれを転載、配信した。また、劉牧師は香港の『UCAN』通信の記者宛てに、「未成年の宗教施設への入場を禁じる」と書かれた、教会の入り口に当局が掲示した貼り紙の写真を送信した。

その結果、劉神父はインターネット上で不適切な発言を投稿、そして国の機密情報を漏えいしたとして非難され、政府から報復を受けるようになった。

バチカンと中国間の合意直後、劉神父は、中国政府が任命した聖職者は、司教も含めて、信頼することができないとバチカンに警告するため、宣教活動を担当する福音宣教省長官フェルナンド・フィローニ枢機卿宛てに書簡を送った。しかし劉神父は常に監視を受けていたため、書簡は当局に没収され、枢機卿には届かなかった。

劉神父は「司教任命に関して、中国共産党政府と安易に合意しないことをバチカンに求めたい。政府が推薦する人物の多くは適切な人材ではない。司教に任ぜられた後、悪行を働くことで知られており、欠点の多くが露呈される。一部の司教の行為には教会の信者も不満を持っている。政府は教会の問題を取り仕切るべきではない。現在の教会の腐敗の原因は、基本的に政治と宗教を切り離すことができないことにある」と訴えていた。

19年に入ると、劉神父に対する圧力は一層強まった。1月下旬、神父と訪問者を監視するため、監視装置が神父の住居の外に設置され、神父の部屋がある2階へ続く外階段は、信者が密かに神父と連絡を取らないように撤去された。

2月13日、当局は劉神父に、政府への抵抗をやめるよう警告した。当局は神父を脅すため、劉江東（リュウ・ジアンドン）神父に用いた手法を採用した。鄭州の聖神教会の主任司祭であった劉江東神父は、18年9月に1週間拘留され、その後、政府に反対したこと、及び「国の宗教の方針と規則に違反」したことを理由に司祭の職を解かれていた。

1週間後、劉神父は当局に、辞職して王躍勝を教区管理者として認めるよう迫られた。

劉神父はこの申し出を拒否した。そして3月4日、河南省の『中国天主教愛国会』の楊修徳（ヤン・シウデ）代表は、劉神父を教会から追放し、銘功路カトリック教会を引き継ぎ、自分自身を主任司祭に任命した。さらに楊代表は鄭州教区全体を「統括」するとも主張したという。

中国が思想統制を強化

教科書から「聖書」と「神」消える

「欧米の侵入」を防ぎ、学校から宗教を排除するため、中国共産党は名作文学、国語および歴史の教科書の内容を変更している。中国の信教の自由と人権について報道するオンラインメディア『ビターウインター』（日本語版）が5月30日伝えた。

２０１８年、中国共産党は中国全土で学校での信教に反対する運動を立ち上げ、宗教信仰と戦うことを約束する宣誓書への署名を生徒に強要し、クリスマスを含むキリスト教の祝日をボイコットさせていた。さらに、授業のカリキュラムが検査され、「教育と授業が政治の正しい方向性と一致」するように、「特別な支援プログラム」を通して教員の教化が行われている。

宗教色の濃い授業を完全に排除するため、現在、中国共産党は小学校と中学校で使われている、海外の作家が執筆した作品の内容を修正している。

河北省の学校に通う生徒の親によると、一部の本の中身が、19年1月に人民教育出版社から出版された6年生向け教科書の新版で削除または変更されていたようだ。

中央政府は、小中学校の教科書が国の方針と一致していること、そして、国の意志を伝える教育の方針を、統一した教科書を通じて実行することを求めているようだ。

中国共産党の全体主義の支配下では、改訂は宗教の分野に制限されているわけではない。中国共産党の思想に反する表現が検閲を逃れることができる可能性は低い。

人民教育出版社が出版した新編学生辞典の漢字「自」の項目では、「自由」が削除された。

一部の学校は、毛沢東の個人崇拝を復活させる取り組みまで行っている。18年12月26日、河南省の小学校に建てられた毛沢東の新たな像を披露する式典で、村の党の書記が毛沢東を「中国人の守り神であり、偉大な精神の象徴」と呼んでいた。

教科書の検閲は、生徒の無神論及び共産主義の教化に沿って行われる。若い世代の習慣を活用し、モバイルアプリが学校で用いられている。新しい世代を共産党の忠実な後継者、そして、新たな「偉大な指導者」習近平の信奉者に仕立て上げることが目的だ。人民日報少年網アプリは「新しい考えを学び、優れた後継者になる」というテーマの下、記事を読み、質問に答える読書活動への参加を全生徒に要求している。青年大学習構想では、「学習強国」アプリを用いて、習近平主席のスピーチの学習を推奨している。（CJC）

天安門事件30年記念し追悼式典

香港の教会

北京で民主化を求める学生らが武力弾圧された天安門事件から6月4日で、30年、香港各地のキリスト教会で5月31日夜、犠牲者を追悼する礼拝やミサが行われた。日本では、現地の状況を毎日新聞などが報じた。

中心部のプロテスタント教会には信徒たちが多数集まり、犠牲者を悼むと共に中国の民主化を願い、祈りをささげた。２０１４年に学生たちが民主的な選挙制度を求めた「雨傘運動」の提唱者の1人、朱耀明（しゅようめい）牧師たちが主催した。流血する若者など事件当時の写真が大画面に映し出されると、涙を流す信徒もいた。

カトリック教会では追悼ミサが行われた。香港教区の元司教、陳日君（ちんにちくん）枢機卿は「香港人は勇気を奮い起こして不正義に抵抗すべきだ」と訴えた。（CJC）

◆連載◆

カイロで考えたイスラム

16

在カイロ・ジャーナリスト　**鈴木真吉**

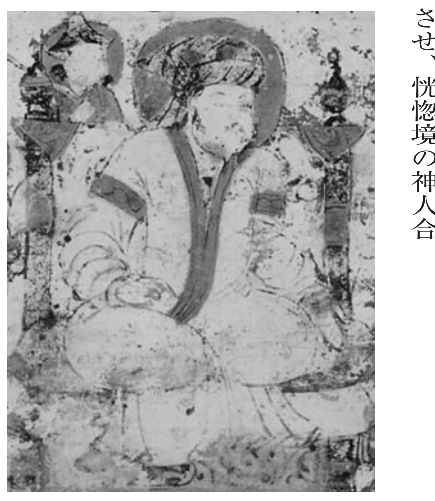
愛による神と人との結合

スーフィーの語源は、スンニー派による律法主義・形式主義的なイスラム法（シャリア）を批判した初期のイスラム神秘主義者が、虚飾を廃し、粗末な羊毛（スーフ）の衣を纏ったのをスーフィーと呼んだこととされる。

青柳かおる氏によると、スーフィズムの起源は禁欲主義で、大征服時代に富裕化して来世を忘れ、現世の幸福だけを求める傾向を批判して現れ、8世紀末から9世紀にかけて、最後の審判を恐れ苦行に励んだことで発展したという。

9世紀には、アッバース朝でイスラム法の体系化が進み、イスラム法の外面的な履行を重視する傾向が強まったことに反発が起き、内面性が強調されたことで神秘主義思想が成長した。

井筒俊彦氏によると、イスラム神秘主義は、神を恍惚と眺め入る忘我静寂の美的体験を無上の境地とするシリア神秘主義を受け継ぎ、さらに一歩進めて、神との恋を完成させ、恍惚境の神人合一、神と人との愛の結合、神と霊魂との結婚を最終目的とするようになった。こうした展開の先鞭を付けたのは、イスラム思想史最初期のバスラのハサン直系の門下にあたる「バスラ派」のスーフィーたちとされる。イラク南東のバスラはスーフィズムの一大中心地になり、最初期バスラ派で特に有名なのが「聖女ラービア」（没年801年）である。



アッバース朝初代カリフのサッファーフ

彼女は、イスラム神秘主義に「愛」の語彙を与えた最初の人で、昼夜を分かたず熱烈に祈り、神について「我が歓喜」「我が希望」「我がいのち」「恋しい人」という表現を使っている。神に恋焦がれて夜もほとんど眠らず、夜明け前の1〜2時間だけ、正座したまま休息していたという。

ガザーリーによると、彼女は夜毎に部屋を出て独り屋上に座し、天空を拝して声を上げ「我が主よ、星は大空にきらめき、人々の眼は深い睡に閉ざされ、地上の王者等もその邸宅の門を閉じ、全ての恋する若者は己が愛する乙女とただ二人でおります。私もここにこうしてあなたと二人だけでいます」と祈っていたという。

青柳氏は「ラービアが神への愛を強調したことにより、禁欲主義から神秘主義への転換が起き、スーフィズムが誕生した。つまり、神や最後の審判を恐れてひたすら禁欲するのではなく、神を愛し、神と人間霊魂が合一することがスーフィーの目的となったのである。」（『面白いほどよくわかるイスラーム』）と指摘した。

スーフィーの修行は神との合一を目指して行い、修行によって自意識が消え、神に包摂された合一状態の中で、神に意識が支配され、没我状態になる。この状態がファナー（消滅）で、修行の到達点とされる。

その後、ファナーに至る修行論（マカーマート：神秘階梯）が整備され理論化される。組織・教団により内容は異なるが、修行により一段一段昇ることで完全へと近付いていくことがスーフィーの目指すべき道とされる。

ラービアとほぼ同時代に、エジプトに現れた傑出したスーフィーがズン・ヌーン（没年859年）である。彼は神秘道の全道程を三段階に分け、第一段階を「浄化・浄清」、第二段階を「照明ないし脱自」、第三段階を「安定」とした。最終の目的地「安定」では、人間の私的活動がやみ、霊魂は突如として光り輝く「神の顔」に出会い、無上の歓喜を味わうという。

青柳氏は著書中で、10世紀のスーフィーで、名著『スーフィズム諸家諸説集成』を著したサッラージ（没年988年）の定義を紹介している。それによると、修行者はまず悔い改め、スーフィーとして生きる決意をし、その後はなるべく世間から離れて隠遁し、禁欲生活を送り、心身を清めてからズィクルと呼ばれる修行を行う。ズィクルとは、一切の雑念を振り払ってひたすらに「アッラー、アッラー」と唱え、集中して神を賛美し信仰告白をし、一定の聖句を唱える。

最終的には神との合一により意識を支配され、ファナー（消滅）と呼ばれる没我状態で完結する。そこにまで到達する神秘階梯（マカーマート）を、①悔悟、②信頼、③忍耐、④清貧、⑤禁欲、⑥節制、⑦満足の7段階とした。

井筒氏は、初期スーフィズム思想の黄金時代を築いた人々として、バグダード派に属した人々とホラーサーン派の人々を挙げ、「バグダードはイスラム神秘主義思想の本拠地」と述べている。

アッバース朝は750年から1258年まで続いたが、あらゆる思想活動の自由が奪われ、未曾有の迫害により教徒の文化的創造力が減殺されたカリフ・ムタワッキル（治世847—861）までの最初の100年間が、「スーフィズムにとってもこの上なく恵まれた時代だった」という。

キリスト教文化が衰退

デンマークで世俗的葬儀増える

【ヘルシンキ・井上善文】キリスト文化社会のデンマークで、キリスト教や他の宗教の様式をとらない葬儀が増えつつあることが、統計局の報告で明らかとなった。

デンマークで結婚式を教会で行わないカップルが増加していたが、葬儀では牧師を招くなど、教会とのかかわりで行う慣習が根強く残っていた。しかし、統計局の今回の報告によれば、葬儀でも世俗的様式を選ぶ人が増えているという。

２００６年に宗教性をもたない葬儀が全体の9％であったのが、18年には、全葬儀の16％に当たる８８４６人の葬儀が、世俗的様式の葬儀を行い、06年に比べ84％増加した。オーフス大学の神学部のウラ・スミト教授はこの結果に対し、「葬儀は教会との関係で行われることがほとんどだった伝統が崩れつつあることを示している。教会は減少傾向の洗礼や結婚などの改善に取り組んできたが、葬儀については問題がないとみていた」と述べ、非宗教的な葬儀の増加は新たな現象だとの認識を示した。

この傾向は全国的にみられるが、特に首都コペンハーゲンでは昨年、亡くなった人の3人に1人が世俗的様式で埋葬された。日頃教会とはほとんど関係を持たない人々も、冠婚葬祭だけは教会で行うという傾向も崩れつつあることから、教会離れが加速し、キリスト教文化がすたれるのではないかとの危機感も生じている。

教えて欲しい、私たちの心のルーツを…　シリーズ『神々・自然　そして生命』第一作　ハイビジョン映像作品

日本は森の國

シリーズ第一作「神々・自然そして生命〜日本は森の國」。この作品は、自然を基軸とした生き方が求められている中で、全生物の生命連鎖を生み出す生命の母体である森林の大きな恵みを神々の恵みとしてきた神の社である「鎮守の森・社叢」の持つ意味を広く伝えるために、日本の各地の祭りや伝承されてきた祭祀、神事芸能のハイビジョン映像を通して、「森に生きる日本文化の意義と価値」を伝えるものである。
（英語解説字幕付／英語解説冊子入）

●総監修　薗田稔（京都大学名誉教授・秩父神社宮司）
茂木栄（國學院大學准教授）
●演出・撮影　松永国彦（KUNIディレクターオフィス）
●DVDで紹介している祭りと行事
吉野水分神社・お田植祭、飛鳥坐神社・おんだ祭、広瀬神社・おんだ祭、六県神社・子出来祭、諏訪大社・御柱祭、大神神社・鎮花祭・饒道祭、率川神社・三枝祭、龍田大社・風鎮祭、弥栄神社・鷺舞、和霊神社・牛鬼、早池峰神社・権現舞、菅原神社・獅子踊、大伴神社・榊祭、鎌の宮諏訪神社・鎌打ち神事、白山神社・お玉の舞・十五童の舞、八代妙見宮・八代妙見祭亀蛇、十根川神社・椎葉神楽、秩父神社・秩父夜祭、隠津島神社・羽山ごもりと幡祭、岩木山神社・お山参詣、気多大社・入らずの森神事、静岡浅間神社・初宮参り、牡蠣の森を慕う会・海は森の恋人植樹祭、えりも岬緑化事業、伊勢神宮・明治神宮
●解説冊子　著者　薗田稔
「日本は森の國」〜鎮守の森　その現在と意義を問う〜
●日本は森の國　イメージソング「万葉POPS」CD
〜聞かせてよ　森のこころ〜
作曲　本田裕子（コクーン）
歌　薗田真木子（ソプラノ）

■ディスク①（44分）
第一話　籠もりくの大和
古代の英雄ヤマトタケルが詠んだ古事記にある望郷の歌「やまとは国のまほろば　たたなつく青垣山こもれる大和しうるわし」こもれる大和と表現された大和の自然は、籠もりと子守りの祈りによって作られた宗教的な稲作風土であった。稲魂を赤子と見立て健やかな成長を祈り、風・水の順調を願い、疫病を除けるための祭祀や稲作の予祝芸能を伝える意味を問う。（17分）
第二話　森のまつり
祭とは、神に供物をタテマツリ、饗宴を催すことにある。山や森、そして水などに神を見い出してきた日本人の自然観と神事芸能の意味を、日本各地で行われている山里のまつりに見る。生命の健やかな成長と一人前になるための試練が祭りの本質的な意味を示している。（27分）
■ディスク②（49分）
第三話　神の木・神の森
巨木や御神木に掛けられた注連縄。巨樹や深い森に霊気宿る力を感じてきた私たちは、その霊気に触れることで活力をいただき毎日の暮らしの支えとしてきた。諏訪御柱祭を中心に古代からの木への信仰を問う。（17分）
第四話　森と現代文明
鎮守の森を分断し走る鉄道、取り残された聖地。明治末期、柳田國男や南方熊楠の神社整理への抵抗運動も実り薄く、現代に至っては、鎮守の森への産業廃棄物投棄など、長い間人々の心のよりどころであったはずの鎮守の森をめぐる危機的な状況から、鎮守の森を守ることの意義と価値を問う。（15分）
第五話　森をつくる話
地球環境の危機が問われているなか、海は森の恋人植樹祭、えりも岬緑化事業、広島被爆からの鎮守の森の再生などの活動を通して、私たちのこころと風土と暮らしを守ってきた、生命ゆたかな森のこれからを考える。（17分）

DVD製作・発行＝KUNIディレクターオフィス　日本文化映像研究所
製作・著作＝NPO法人社叢学会　愛・地球博出展実行委員会
（有）スタート・アップ
制作協力＝神宮司庁　神社本庁
価格　税込み1万円のところ7千円で。DVD2枚、5話＋解説冊子＋挿入歌CD「万葉POPS」
お申し込みはKUNIディレクターオフィス、左記FAXまたはホームページからご注文下さい。
電話・FAX　054（209）2530
URL　http://mori-minzoku.net/